

市民広聴会「市長と話そう」の記録 ④西市民センター

■開催の概要

日時	令和5年10月28日(土) 14:00~15:30
場所	西市民センター
主なテーマ	重点戦略1「子どもにやさしいまちづくり」
参加者数	18人

■意見交換の概要(要約)

ご意見(ア)

○市の職員は地域の子どもに対して愛情を持って取り組んでいるか。地域、学校、家庭が一丸となった地域づくりができてきているのか。PTAや有志等を含め、今後の取組を考えていく必要があるのではないか。

→本市の職員は、市民に対して愛情を持った取組、対応をしているものと考えている。地域においては、学校に対して多大な協力をいただいている。今後はそれらを深めることができるよう進めていく。

ご意見(イ)

○坂戸市で給食が無償化され、好評だと聞いている。鶴ヶ島市でも給食の無償化を検討してもらいたい。

→給食費の無償化にはおよそ2億5,000万円の費用が必要である。本市としては、教育環境の改善や支援員など、教育環境の充実に充てることの方が重要だと考えている。給食費の無償化については、国や県の動向を見ながら検討していく。

ご意見(ウ)

○せっかく公園を整備するのであれば、子どもがボール遊びやスケボー等の体づくりも含め、楽しめるように改善してもらいたい。厳しい規制があっても、利用が進まない面もある。

→これまで公園整備に多くの予算をつけて整備を進めてきたところであるが、今後はスポーツ施設などにも力を入れて対応していきたい。

ご意見(エ)

○コミュニティ・スクールの活動に携わりたいと思っているが、加入の敷居が高いと感じている。コミュニティ・スクールをもっと活用すべきだと感じている。現在、鶴ヶ島市ではどのようにコミュニティ・スクールが運営されているのか。

→本市は全校がコミュニティ・スクールとなっている。コミュニティ・スクールとは、学校の職員や地域の保護者からなる学校運営協議会という制度を導入した学校のことを指している。最近では、委員がなかなか集まらないといった課題があり、PTA役員や自治会長にお願いしている学校が多い状況である。委員になりたい場合は、学校長にご相談をしていただきたい。引き続きご協力をお願いしたい。

ご意見（オ）

○よく訪れている公園で、犬の糞を頻繁に見かける。子どもたちの遊び場の環境改善のために、公園には犬の連れ込みを禁止してもらいたい。

→犬の飼い主に対してマナーを守っていただけるよう対策を考えていく。

ご意見（カ）

○不登校児への対応はどうなっているのか。

→不登校児への対応は非常に大きな課題であり、それぞれの子どもの状況により対応も変わってくる。本市は埼玉西部 11 市の中では不登校は少ない方であり、学習支援員や学級補助員のほかスクールカウンセラーを市の予算で毎週配置するなど、授業を行う教員以外に子どもたちを支援する体制を整えている。学校では、3日間連続で登校が無かった場合、電話確認や家庭訪問により子どもの状況について保護者に確認をしている。その後、必要に応じて教育センターのカウンセラーに繋ぐなどの対応を取っている。教育センターには支援室も設置しており、そちらに登校できるようにもなっている。

ご意見（キ）

○鶴ヶ島市の公園は遊具が少なく、孫とは他市の公園へ行っている。市内の公園に大きなアスレチックや遊具を設置してもらいたい。

→運動公園には多目的広場などがある。大規模遊具等については、今後検討していきたい。

ご意見（ク）

○坂戸市では土曜日に、大学生等が小学生に対して学習を支援する、のびのび教室といったものを開催している。鶴ヶ島市でも若い人や元教員の方を活用して、同じように取り組めないか。

→本市でも退職した教員や大学生が、小中学生を対象に勉強を教える場があり、コロナ禍以降も続けている。今後も地域の協力を得ながら、子育てや子どもの学習を支援していきたいと思う。

ご意見（ケ）

○市外に流出した若い世代が鶴ヶ島市に戻りたくなるような大きな取組がない。例えば、祭りや伝統行事などで市に戻るきっかけがあればよいと思う。

→本市の伝統行事としては、高倉獅子舞と脚折雨乞があり、その他は地域の小さな祭りや産業まつりが行われている。今後は新たなかたちで、多くの人に関われるような行事を検討していきたい。

ご意見（コ）

○特別支援学級の教員はどのように選定しているのか。また、研修や教育はどのようになっているのか。特別支援学級の教員が突然変わるといったこともよく聞いている。

→特別支援学級については、本市では全校に設置している。教員の採用は埼玉県教育委員会が決めしており、市としては県の教育委員会と調整を行い、教員の希望も確認しながら各校の教員を決定している。担当教員が突然変わることは、体調不良などのやむを得ないものがほとんどなので、ご容赦いただきたい。研修については、県、市それぞれの教育委員会で行っており、通常学級、特別学級どちら

についても行っている。

ご意見（サ）

○最近子育てにかかる経済的負担が大きくなっているため、経済的な支援にも注力してもらいたい。
→本市としては、母子手帳が申請された段階から、伴走型でできる限りの子育て支援を行っている。市民の意見を聞きながら対応を検討していきたい。

ご意見（シ）

○鶴ヶ島市ではいじめに対してどのような対策をしているのか教えてもらいたい。
→いじめについては、各学校でいじめ防止基本方針を作っており、各学校のHPで確認できるようになっている。教育委員会での統一した取組としては、年5回のアンケートを実施している。夏休み明けに不登校が増える傾向があるため、市で心と体の健康調査を行い、各学校では二者面談のほかに子どもから希望があれば随時面談を行っている。その他、子どもが信頼できる大人に相談できる等のいじめ対策プログラムを実施している。

ご意見（ス）

○今日この場で話を聞いて、鶴ヶ島市の様々な支援、取組について知ることができたが、鶴ヶ島の支援についてわかるサイトなどがあれば教えてもらいたい。市の議員は他自治体のようにもっとSNSを活用すべきだと思う。
→情報発信の媒体については、市のHPのほか市公式アプリ「つるポッケ」等を運用している。このアプリでは、HPに掲載している子育て支援に関する情報や防災、生活に関する情報などを確認できるようになっている。また、X（旧Twitter）やLINEでも情報を発信している。

ご意見（セ）

○特別支援学級の設置方針については素晴らしいと思うが、支援員や補助員が足りていないのではないかと。せっかく子どもが特別支援学級に通うことができても、逆効果だという話も聞いている。教員に対する研修や教育は、机上だけでなく実践的な内容でも実施してほしい。特別支援学級の巡回指導というものがあるのだが、これは学校長が支援学級に相談しなければ実施できない仕組みであり、保護者から相談ができない状態にある。そのため、教育センターにも相談しやすい仕組みを考えてもらいたい。
→子ども一人ひとりに対応できる取組を前向きに検討していく必要があると思っている。支援員、補助員については、必要なところに配置している。教員の研修については、種類によって実習を実施している。通常学級でも全体の約10%は特別支援が必要な児童だと言われている。支援員の配置を各学校間で調整していく必要がある。相談したいことがあれば、教育委員会にご相談いただきたい。

ご意見（ソ）

○子どもの郷土愛を醸成するために、具体的にどのような取組を考えているのか。
→高倉の獅子舞や脚折雨乞に子どもの参加を促すほか、学校授業でも伝統行事について取り入れるようにしている。子どもたちが市内の行事に愛着を持ってもらえる取組を検討していく。

ご意見（タ）

○学校の給食について、あまり量が多くないと聞いている。給食費の無償化等の意見があったが、給食の質を上げるなどの対応も検討してもらいたい。

→給食の量については、学年ごとに適量となるよう調整している。今後も質の向上に努めていく。

ご意見（チ）

○市長自身は「子どもにやさしいまちづくり」をどのように捉えているのか。鶴ヶ島市では、実際に子育て政策の実績がある自治体に対してヒアリング等のアプローチをしているのか。例えば子育て政策の実績がある明石市の元市長に、機会があれば話を聞くなどしてもらいたい。市内だけでなく市外との連携も行ってもらいたい。

→「子どもにやさしいまちづくり」には様々な考え方があると思うが、私としては子育てに必要な施設や環境について、子どもの成長に合わせてどのような取組が必要かを考えている。本市では子育てだけでなく他分野についても等しく力を入れ、市全体の中で予算配分を行っている。先進地の取組も参考に検討していきたい。

ご意見（ツ）

○今通っている学校の教員が怖いと子どもが言っており、それが原因で学校に行けなかった時期もある。もう少し、教員の教育の仕方について工夫してもらいたい。いじめの対策としてアンケート行っているそうだが、子どもの中にはいじめられていることを教員や親に伝えられず、発覚が遅れてしまうケースもあるため、そういった子どもへのフォローにも努めてもらいたい。

→子ども一人ひとりの状況に合わせた対応を進めていきたいと考えている。

ご意見（テ）

○鶴ヶ島市は人口が減少しているが、最新の出生率ほどのくらいか。現在、市内に産婦人科医院がないので積極的に増やしていくべきだと思う。

→合計特殊出生率の現時点での最新値（令和3年度）は1.15である。産婦人科医院の設置については、5,000万円の補助額を設定しているが、他自治体ではさらに多額の補助額を設定している例もあり、市内に呼び込めていない状況にある。今後も引き続き取り組んでいく。

ご意見（ト）

○鶴ヶ島市では子どもに係る様々な施策に取り組んでいるが、あまりそれが市民には伝わっておらず、保護者が不安に思っているところがある。どこに相談すればよいか分からない。SNSの運用について、双方向でのやり取りを行えるといったSNSの利点あまり生かされていない。アプリについてもHPの情報のみなので、子育てに関する相談窓口を設ける必要があるのではないかと思う。また外国語にも対応した施策も必要だと思う。

→ご意見として何う。

ご意見（ナ）

○郷土愛の醸成を図るのであれば、企業誘致などで昔ながらの風景をなるべく壊さないよう努めてもらいたい。

→ご意見として何う。

ご意見（ニ）

○このような広聴会については保護者だけでなく、当事者である子どもも参加できるようにしてはどうか。

→ご意見として何う。